

今こそ野党は一つにまとまるべき——仙谷由人先生を偲ぶ

～不屈の信念で友愛・共生の社会を創る～

前衆議院議員

小山のぶひろ



氏に訊く

2018年10月16日、元民主党衆議院議員で官房長官等も歴任した仙谷由人先生が亡くなられました。仙谷先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

私が、仙谷先生と初めてお会いしたのは、実は学生の中で、学生主催の勉強会に講師としておこしいただいたこともありました。会場近くの「つば八」で飲み会をしたこと、「そうだ、あいつを呼ぼう」ということで、急遽、枝野幸男議員をお招きしてくださったことなど、懐かしく思い出されます。その後、就職したため、仙谷先生や政治とは縁遠くなりました。

私が初当選し、一期目の際には、鹿野道彦先生が代表だった「素交会」に所属していたこともあり、仙谷先生との接点はあまりありませんでした。しかし、二期目から現在までは、仙谷先生が、公明党の坂口力先生とともに取り組んでこられた「労働者協同組合法」の議員立法化に向けて、私が事務局長をしていた協同組合振興研究議員連盟で取り組むこととなったため、仙谷先生からは超党派議連を構成するに当たっての貴重なアドバイ

する東京での勉強会にも講師としておこしいただいたこともありました。

私は仙谷先生が中心的役割を果たした「凌雲会」には所属しませんでした。この「凌雲会」に、立憲民主党の枝野代表や、前原議員など、現在はいくつかの党派に分かれてしまった議員が集っていたこと思うとき、仙谷先生の器の大きさを感じます。それとともに、たった一年間、別々の党に所属し、「もう一度と一緒に活動しない」と仰っている議員の方々が、十数年もの間、同じ党どころか、同じグループで政治行動をともしらっしゃったことを思えば、今後、同じグループに戻ることは困難にしても、一つの党にまとまることは、不可能なことではないように感じます。

10月17日には、私と同じく、昨年の選挙で惜敗された馬淵澄夫先生が代表を務める、惜敗者で構成される「一丸の会」の会合がありました。ゲストには、元農水大臣鹿野道彦先生が講演し、「与党でも野党でもなく、新たな政治を求める気概で、日々、活動に取り組んでもらいたい」との趣旨のお話がありました。かつて、民主時代には代表選を争った鹿野先生と馬淵先生が同じ空間でにこやかに語らっていることに感慨深いものがありました。

仙谷先生のご遺志を継ぐ意味でも、鹿野先生の思いを受け継ぐ意味でも、飽くまでも「一定のけじめを前提」としつつ、今こそ、野党間に「赦しと和解」が必要であり、友愛の精神を持って、野党は、内ゲバではなく、共通点を見つけて一つにまとまっていくかが、求められていると思います。私も自分のできることを取り組んで参る覚悟で、捲土重来を期して、今後も活動いたします。

前衆議院議員 小山展弘